

平成 29 年 10 月 16 日

各 位

代表取締役社長 堤 純也
 (コード番号：3823 東証マザーズ)
 問合せ先：取締役副社長 國吉 芳夫
 電話番号：(03)4405-5460

営業外損失及び特別損失の計上、並びに通期業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、営業外損失及び特別損失の計上、並びに平成 29 年 4 月 14 日に公表した平成 29 年 8 月期通期業績予想と本日公表の実績値との差異に関して、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 営業外損失及び特別損失の計上について

当社は新経営陣による経営戦略の下、不採算部門の整理を進め、継続的な黒字化を目指した施策を進めております。この度、回収可能性を検討した結果、個別で計上していたソフトウェア資産や事業譲受ののれん等の固定資産のすべてに当たる減損損失 237 百万円を特別損失として、個別及び連結決算に計上いたしました。また、当社連結子会社のネクスト・セキュリティ株式会社におきまして、平成 29 年 9 月 28 日に公表いたしましたように株式譲渡を前提として回収可能性を検討した結果、同社に対する貸付資金に対して貸倒引当金 44 百万円を営業外損失として、関係会社株式評価損 60 百万円を特別損失として、個別決算に計上いたしました。

2. 平成 29 年 8 月期連結業績予想と実績値との差異 (平成 28 年 9 月 1 日～平成 29 年 8 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	親会社株主に帰属する 1株当たり当期純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	2,827	△339	△364	△606	△37.62
実績値 (B)	2,662	△363	△401	△891	△50.97
増減額 (B-A)	△165	△24	△37	△285	
増減率 (%)	△5.8	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 28 年 8 月期)	2,280	△330	△368	△504	△34.02

3. 平成 29 年 8 月期個別業績予想と実績値との差異（平成 28 年 9 月 1 日～平成 29 年 8 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益 （円 銭）
前回発表予想（A）	2,168	△268	△313	△571	△35.45
実績値（B）	2,175	△300	△403	△964	△55.17
増減額（B-A）	7	△32	△90	△393	
増減率（％）	0.32	—	—	—	
（ご参考）前期実績 （平成 28 年 8 月期）	2,241	△293	△315	△451	△30.40

4. 差異の理由

連結業績においては、当社連結子会社であったネクスト・セキュリティ株式会社が見込んでいた売上を下回ったほか、当第 3 四半期より当社連結子会社となった不動産サブリース等を行う株式会社渋谷肉横丁については、当初予定していた飲食業を事業範囲に含むものから不動産のサブリース及び商標権の管理のみに切り替えたことにより、見込んでいた売上を下回る結果となりました。しかしながら、渋谷肉横丁社の業態変更は売上と見合う費用も減少する形であり、同社は当初想定していたキャッシュフローを生み始めております。

また、「1. 営業外費用及び特別損失の計上について」に記載のとおり、特別損失を計上したため、当期純利益が大きく下回り、個別業績においても、「1. 営業外費用及び特別損失の計上について」に記載のとおり、営業外費用と特別損失を計上したため、経常利益及び当期純利益が下回りました。

当社グループは平成 30 年 8 月期から第三創業期と位置付け、これまで不採算事業を整理し、販売管理費の大幅な見直しをするなどの様々な改革を行ってまいりました。当期のソフトウェア資産や事業譲受ののれん等をすべて減損損失計上したことにより、来期以降に関しましては、固定資産の償却負担が大幅に軽減され、業績の向上に寄与する見通しであります。

以 上